

蟹工船 および 漁夫雑夫虐待事件

倉 田 稔

もくじ

はじめに

1 蟹工船

蟹漁 蟹缶詰製造 蟹工船

2 蟹工船漁夫雑夫虐待事件

博愛丸事件 その他の事件 運動

はじめに

本稿は、小林多喜二伝(30)である。しかし2つの部に分ける。

1つは、蟹工船そのものについての背景である。多喜二の小説『蟹工船』は、1929(昭和4)年、彼が、苛酷な労働条件のもとで働く海の労働者の蜂起と挫折を描いた代表作で、名作とされる。当時小樽にいた多喜二を中央文壇に押し上げた作品で、日本のプロレタリア文学の最高傑作といわれる。

もう1つは、蟹工船漁夫雑夫虐待事件である。ここでは、この多喜二の『蟹工船』がモデルとした諸事件を、当時の新聞発表で探ってみるものである。つまりフィクションでない事実だけを紹介する。

1 蟹 工 船

蟹 漁

蟹漁は、最初陸岸から始まる。4月、5月は、蟹の生息に陸岸が好適である

からである。夏に入って温度がだんだん上がると、蟹は沖へ沖へと去る。蟹工船も、その後を追って、沖へ沖へと出る。

漁場では万事、監督の指揮によらねばならない。一隻の蟹工船は、大抵8隻くらいの川崎船(日本型の発動機船)を持っている。それに網と漁夫を乗せて、この発動機船が曳航し、蟹のいそうな所に網を投ずる。半日ほど入れて——後出の日数と違う——、これを上げると、無数の大蟹が引っかかってくる。¹⁾

タラバガニをとるには、沿岸の結氷がようやくほころび始める頃を待ち、川崎船で、適当な漁場にゆき、底刺網という漁網を海底に垣根のように横にのべて沈め設定する。この底刺網の網目は、1尺5寸以上の大きさがあり、網は幅十尺、長さ25メートルを1反として、これを60から100、横につなげる。これを1連という。こうして海底に長さ1万尺から1万5千尺くらいの垣網を建て延ばす。これを設定してから、標示をし、いったん根拠地に帰り、3、4日後、未明にその漁場へゆき、刺網の位置を知り、これを川崎船の中に引き上げる。網にはタラバガニが無数にひっかかっているので、直ちにこれを缶詰工場に運搬する。これは陸上で缶詰をつくる場合である。

蟹工船漁業の設備は、蟹工船と複数の漁船からなる。漁船は漁場に出て蟹をとり、蟹工船は複数の漁船の母船となり、缶詰の製造をする。漁船は、発動機船と川崎船に分けられる。発動機船は20馬力から60馬力のセミ・ディーゼル機関をすえた西洋型船であり、曳き船のため、また漁場探査のためにも使う。川崎船は肩巾9尺、長さ45尺で、投網、揚網、一切の漁労に使う。昭和初期にはほとんど全部10馬力くらいのセミディーゼル機関をつけていた。各蟹工船はこれらを4隻から10隻もっていた。

蟹工船漁業でも底刺網を使用する。養殖保護のため小蟹の捕獲を禁止するので、網目1尺5寸以下の使用を禁止している。蟹工船1隻の使用する刺網は、大体、1万5、6千反に達し、1反は25尋であるから、これを横一列につなぐと170、180里となる。蟹工船の設備は、缶詰製造の設備と従業員の生活設備と

1) 『小樽新聞』1926年9月16日、19日。

に分けられる。缶詰製造設備は、二層以上の甲板のある船なら、中甲板にある。缶詰工場は、種々の機械を運転し、蒸気を使うから、舷側には円窓舷門などを多くし、換気と採光をはかる。タラバ蟹は、鮭鱒のように機械で裁割し肉詰ができないから、機械としては、仮締機、脱気函、二重巻締機の三種類があれば十分である。蟹工船では製缶能力の大きいアストリア式の機械を一組づつ装備する。そのほか缶詰設備には殺菌釜と煮熟釜がいる。

従業員設備については、蟹工船は漁船としてでなく臨時旅客船として取り扱われるから、漁夫雑夫の居室も、採光、通風、出入口など、規定の検査を受ける。蟹工船創始以来の工船数、トン数はこうなる。

	隻数	総トン数	一隻当りの平均トン数
大正10年	2	689	344
11	3	1236	412
12	15	9075	605
13	6	9561	1594
14	8	15835	1979
15	12	28472	2373
昭和2年	17	36433	2143
3	14	35048	2504
4	15	37451	2497
5	19	63987	3368 ²⁾

蟹工船漁場として最も適当な時期は次である。

地	域	始 期	盛 期	終 期
カムチャッカ ³⁾	東海岸	5月上旬	—	9月
同	西海岸	4月上旬	5月上旬から 6月中旬	9月上旬

2) 産業経済調査所『蟹缶詰の話』33-34ページ。

3) 当時の文献では、堪察加、カムサッカ、と表現される。

沿海州サマルカ (春漁)	3月上旬	4月	5月下旬
同 (秋漁)	9月上旬	10月	11月下旬
沿海州ネリマ (春漁)	4月上旬	5月	6月下旬
同 (秋漁)	7月下旬	9月	10月下旬

漁期は地方によって一定しないし、開始は流水の退去に、終漁は時化(しけ)の来襲による。蟹は流水や時化によって左右される。カムチャッカ西海岸で雌雄蟹の移動は、初春、4月初め、雌蟹がまず浅海に来遊し、ついで4月下旬または5月中旬、雄蟹がその後を追って来る。雌蟹が浅海にやってくるのは、卵の孵化のために、日光と餌が必要で、日光が達する浅海の海底は海藻が繁茂し、水温も高いので、稚蟹の發育に絶好なのである。この浅海に雌雄が混同棲息するのは約1カ月であり、その後、雄蟹はだんだん深海に移動し、8月末には40メートル以上の深海に退く。

蟹工船の漁場として、オホーツク海東部、すなわちカムチャッカ西海岸と東海岸であり、西海岸が最も優秀な漁場で、その漁場面積は岸から3裡にはじまり沖合い50裡で、深さ5、60メートルに及ぶ。当時の文献で、西カムという語がある。これはカムチャッカ西海岸のことである。

トラバガニを漁獲するには、まず川崎船で底刺網を漁場に沈める。川崎船は一隻だいたい底刺網を5百反用意し、漁場に到着すると、風向、風位、潮流などを留意し、潮上から流向に約30度の角度で投網を始める。海軍型錨1貫8百目くらいのもに浮標網を結び、刺網の沈子網を結び、投入し、順次、網に沈子と浮子をつけながら投網する。浮標網は水深の約3割から5割増しにし、網の末端には径1尺くらいの硝子玉1ケか2ケ、または長さ5尺くらいの丸太をつけ、これに赤白黒の木綿地の旗をつけた浮標竹を立てて、発見しやすいようにする。錨は、刺網20反から25反(1反は25メートル)毎に、1ケをつけ、2百反くらいを結んで、1配とする。このように投網して、時化がないかぎり、5日から1週間経過すると、揚げ網をする。各川崎船には手用の巻ロクロが備え付けてあり、網は蟹のかかったまま船内にたぐり込まれ、積み重ねられる。1隻の川崎船の揚網反数は、蟹のかかりぐあいによるが、70反から150反まで

である。揚網が終わって満船になると、母船である工船の錨地に帰り、工船の舷側に錨泊し、蟹のかかった刺網をウインチで工船の甲板上に引き上げる。甲板上で、直ちに、蟹と網を分け、蟹は製造部へ渡し、網はいったん湯に通してから日で乾かす。

大正末に北海道と樺太沿岸ではタラバ蟹の漁獲が著しく減少したので、北海道では昭和2年から4年まで北見方面を禁漁し、樺太地方でも営業者自ら工場を閉鎖し、繁殖保護に努めた。ただカムチャッカ西海岸では年とともに漁獲高が増加してきた。その漁獲高は、

大正11年	164万尾
12	508
13	462
14	1072
15	1865

となった。また繁殖保護のため、雌蟹と甲幅5寸以下の蟹は、農林省令で禁止された。

蟹缶詰製造

蟹の裁割前の処理は、まず、1. 川崎船から蟹を網のままでウインチで本船の上甲板へ巻けあげ、2. 適当の場所へ運び、網を繰り出し、鉤で蟹をとりはずし、3. 蟹の腹部を上向きにし、フンドシという部分に右足の先をかけ、脚を左右各両手で握り、引き上げると、内臓をつけた胸甲は容易に引き離され、手中には蟹の脚部全部だけが残る。

次に、縦横深さ共に4尺の煮熟槽に海水を満たし、これに蒸気を通じて沸騰した中に、甲を除いた蟹を籠に入れる。この収量は一度に蟹200尾である。これを、10か12分間煮沸し、すぐ海中に投じて急激に冷却する。

十分冷却したこの蟹を、トロリーによって裁割場に運び、包丁か、鋏を使い、第1関節から全部の脚をとり、頭部と脚部とに分ける。その後、頭胸部から肩肉をとり、各脚は関節部を、三、四分切り除き、第1関節・第2関節・第3関

節・爪とに分ける。このうち第2関節は最も短く、ここからとった肉はラッキョといい、余り上等ではない。爪肉は採取に時間がかかるので、大きい右だけを利用し、小さい左は捨てる。缶詰原料としては、第1関節の肉が最上で、一番脚肉といい、次は第3関節の肉で、3番脚肉という。殻から抜き出したものをザルにいれ、海水を満した桶の中に浸し、丁寧に洗う。洗浄水を切って、肉の大小や良否を区別し、一等肉と三等肉に仕訳をする。

蟹肉を缶に詰めるには、農林省令の規定がある。1ポンド缶は肉量375g以上で、1番脚肉105g以上、崩肉113g未満である。他缶はこれに準ずる。十分水切りをした肉は、裁切板上で薄刃包丁で1番脚肉と2番脚肉との両端を切り、評量方へ送る。評量方は、1番脚肉を評量し、爪肉1ケ、2番脚、ラッキョを配合し、第2評量方へ移す。第2評量方は、さらに肩肉、4、5ケを添加し、第3評量方へ渡す。第3評量方は、これに崩肉約15匁以内を加え、1ポンド缶の容量とする。これを1缶分ずつ皿に盛り、ベルトコンベヤーで、肉詰作業場に運ばれる。

カニを網から外す作業は煩雑である。しかも、腐敗する前に素早くゆで、小さい缶のなかに規定の大きさ、数、部位のカニ肉を見栄えよく詰めなければならない。多数の労働者による濃密な作業が不可欠だった。⁴⁾

蟹缶詰の缶は、95ポンド以上のラッカー・ブリキ板を使って製造した二重巻締缶で、あるいはさらにその内面をラッカーで再度噴霧したレラッカー缶である。このラッカーは漆の主成分から精製した日本の特産である。缶には、1ポンド缶、半ポンド缶、4分の1ポンド缶があり、内容量はそれぞれ、375g、188g、94gである。缶は製缶工場から供給される。缶の内面をラッカーで塗るのは、錫と鉄面の露出を防ぐため、蟹肉と缶材面との接触を防ぐために硫酸紙を使う。硫酸紙は、種類が多く、多くは外国輸入品であった。缶用としては、紙質が強く、高熱にたえ、煮沸しても蟹の風味・光沢に影響しない良質のものである必要がある。硫酸紙は、普通は大判で長さ40インチ、幅30インチである。

4) 『朝日新聞』1999年10月13日特集から。

これを裁断して使う。

最も注意を要するのは、肉を包む硫酸紙であり、検査で優良不良が決まるのは、実に硫酸紙の良不良によって決まる。つまり不良の硫酸紙を使うと、肉が赤くなり、さらに黒色になる。折角苦心して作った缶詰も不合格となってしまう。こうして缶に詰められ、殺菌され密封されて、缶詰が完成する。⁵⁾

1ポンド缶は、殺菌後の減量を見越し、約116匁を標準として配合する。肉詰員は、まず大きな一番脚肉2、3ケを取り除き、残った一番脚肉の紅色部を外部に向け、下詰めとし、その上に二番脚肉ラッキョを適当に詰め、さらに中心部に崩肉を押し付け、最後に、初め取り除いた脚肉の紅色部を上向きに並べ、硫酸紙と体裁よく折り畳んで、肉詰めを終わり、ベルトコンベヤーで仮締機に送る。缶詰製造上、脱気、加熱、殺菌などにより歩減があるので、肉詰規定量をえるために、規定より9匁から15、6匁多く詰める必要がある。

仮締機で蓋を仮締めしたものは、脱気箱に送られる。脱気箱の内部は、蒸気熱で相当高温に保たれ、缶詰がその中を通る間に、缶内の空気を排除する。その時間は摂氏100度で約7分から15分である。脱気後の缶詰は、すぐ巻締機で固く気密に密閉される。

缶詰は、密封、脱気、殺菌の三行程で完成され、殺菌は最も主要な行程であり、殺菌が不完全だと多大の腐敗缶を出すから、注意が必要である。殺菌装置には、横型式と縦型式がある。密封された缶は鉄製の籠に並列し、横型式では、レトルトカーに数枚重ね、そのままトrolleyで運ばれ、殺菌釜の中に入れ、縦型式では、籠の1枚1枚をチェーンブロックで釜の中に入れ、積み重ね、蓋を密閉し、蒸気を通じて、高熱で殺菌する。半斤缶では、3ポンドか4ポンドの圧力で、1時間から1時間20分加熱する。その温度は摂氏106、7度である。

殺菌釜から出すと、大型扇風機で冷却するか、清水タンクに入れてブラッシュでよく洗浄し、引き上げて扇風機で十分放冷する。冷却したら、自動ニス塗機か人手で、缶の外部に透明な白色ニスを塗る。殺菌釜から出して冷やしてい

5) 『小樽新聞』1926年9月16日、19日。

る間に、缶が気密になっているか、真空度が一樣であるかどうかを、打検法で調べる。

合格したものを、函へ荷造りする。1ポンド缶は4ダースで、半ポンド缶、4分の1缶は8ダースで1函とする。荷造り後、船倉に貯蔵する。蟹工船は、4、5千函貯蔵できる。これを適宜、中積船にとりにきて貰う。⁶⁾

蟹工船

蟹工船による蟹缶詰の初めは、大正5年、水産講習所練習船雲鷹丸に簡単な缶詰機械をすえつけ、オホーツク海上で船内で製造試験を行なったことである。その結果がよかったので、カムチャツカ西海岸で富山県水産講習所練習船・呉羽丸がより大規模に製造した。

日露戦争から大正の初めにかけて、北見、根室、千島、樺太にかけて、蟹缶詰製造所が続々事業を開始した。大正9(1920)年に⁷⁾、和島貞二が蟹工船を事業化してから、企業は急速な発展をとげた。とくに大正9(1920)年、露領蟹漁区を獲得してからは、カムチャツカ沿岸と蟹工船との蟹缶詰製造の産額は飛躍した。同方面の事業は、当初から日魯漁業会社が主であり、初期には若干の競争者があったが、昭和7年には日魯に合併された。日本の蟹缶詰は英米欧大国人が愛好し、日本の重要輸出業となり、外貨獲得に大きな役割を果たした。日本蟹缶詰輸出組合の等級には、ファンシー fancy, チョイス choice, フェア fair, パスト passed がある。

輸出蟹缶詰は、農林省の検査規準による日本蟹缶詰業水産組合聯合会⁸⁾の検査に合格しないと輸出できない。

イ 崩肉缶詰でないもの

合格 ファンシー 1位, チョイス 2位, フェアー 3位。

6) 『蟹缶詰の話』

7) 越崎は、大正10年とするが、『蟹缶詰罐の話』に従う。

8) 大正13年に成立した。

不合格	格外 廃品
ロ 崩肉缶詰	
合格	パスト A 1位, パスト B 2位。
不合格	格外 廃品

輸出可能のものは、ファンシー、チョイス、フェア、パスト Aに限られ、対中国へはパスト Bも許可される。廃品は検査所で没収・廃棄される。函に fancy, choice, fair, passed, nonexportable, rejected と押される。

缶の蓋と底がふくらんでいれば、不良品、開缶してプンと鼻をつくのは不正品、肉に青班や黒班の多いものは不良品で、肉の成分とブリキの鉄と化学反応を起こす結果であり、有害ではない。形態も柔軟なものは新鮮でないか、製法が悪いかなので、避けるべきとされた。⁹⁾

明治41(1908)年、日露漁業協約が実施された。その後、露領漁業は驚くべき発展をした。帆船から汽船へ移り、塩蔵から缶詰へ移り、函館を経由したのが、缶詰製造により漁場から輸出地まで直送され、最初一獲千金をねらう群小漁業家の自由企業時代から、大資本経営の少数漁業会社時代となった。なお昭和17年5月の水産統制令により北洋漁業も全面的統制時代になった。漁業会社では日魯漁業が有名である。

石川県人・米林伊三郎は、林商会をおこし、樺太漁業をおこない、明治37、38年(1904-5、日露戦争)戦役の結果、全島が復領すると、明治39(1906)年、西海岸8箇所を経営して、儲けた。明治44(1911)年、樺太漁業をしていた中山説太郎と、一井組を組織し、明治45(1912)年、カムサッカに進出して、東海岸7箇所を経営し、大正2(1913)年、カムサッカの優良漁場を入手し、缶詰事業を始めるなど、次第に規模を拡大した。その後、西海岸、ニコライスク方面の漁場も加え、藤井猪之助と提携し、カラギンスキー区方面にも漁場を加

9) 産業経済調査所『蟹缶詰の話』

えた。

大正3(1914)年3月、一井組は、資本金2百万円で、日魯漁業株式会社(=旧日魯)を創設した。大正5(1916)年、北千島で鱈漁業、蟹缶詰に着手、大正6年、母船をカムサッカ西海岸沖に出した。

カラフトの鯨漁業が、乱獲のため減少し、そこで大正7、8年、カムチャッカ漁業に重点をおこうと、西部カムチャッカに漁場を増やし、缶詰工場を新設し、オホーツク地方にも漁場を入手した。第1次大戦とロシア革命、そして「尼港」事件もおき、露領極東地方は無政府状態となり、日本はウラジオストックのゼムストヴォ¹⁰⁾政権が樹立した臨時政府と暫定協定を結び、露領に出漁した。

大正9(1920)年、当時カムチャッカと樺太に多くの優良漁場と新式缶詰工場をもった堤商会と提携になった。大正10(1921)年3月、極東漁業株式会社(堤商会が株式会社化したもの)と合同した輸出食品株式会社、カムサッカ漁業株式会社、日魯漁業株式会社、の三社は、合同して日魯漁業株式会社となった。¹¹⁾これは、カムサッカ第一の漁業会社となった。堤清六が社長となり、カムチャッカとオホーツクに魚場105箇所、樺太、エトロフに漁場31箇所、缶詰工場19箇所、をもった。

当時、北洋漁業は漁業権をめぐるソ連と対立し、国際的注目を浴びながら、国家的産業として、その規模が毎年拡大されていた。1927年に、47万トンの漁船が出漁し、約2万の漁業労働者が送り出され、北洋漁業の監獄部屋といわれた蟹工船の漁夫・雑夫は4千人を越えていた。

原敬(はらたかし、1856-1921 政友会総裁。1918-21 首相)は、日本の守るべき権益は満鉄¹²⁾と北洋漁業、と演説した。北洋漁業は生糸について外貨獲得には2番目に大きかった。¹³⁾大正年間に本格化した蟹工船による母船式

10) 地方自治会。

11) 『函館市史資料集』第20集(続 水産業)函館市史編纂委 昭和32年12月。

12) 満州鉄道。これは明治39(1908)年にできた。

13) 日高昭二講演 1994年10月から。

カニ缶詰製造は、欧米への製品輸出を通して貴重な外貨をもたらした。

明治38（1905）年、缶詰の試験をした。富山県水産講習所が海上で缶詰を作った。それまで真水が必要だった。海上で真水が作れるようになった。

蟹缶詰はヨーロッパ人が珍重した。ロンドンで売りさばかれた。農民が農閑期に出稼ぎをした。大正15（1926）年に県・役場が募集した。

舞台は誕生したばかりの社会主義国ソ連の鼻先に広がる「政治の海」、労働者の赤化防止は至上命令だった。蟹工船という隔離された小さな空間に、国家と企業の政治的、経済的要求と矛盾が集約された。¹⁴⁾

商業ベースでのカニ缶詰製造の歴史は、蟹工船に先だって20世紀初めに根室で始まったとされる。国後島や根室半島の陸上工場が舞台だった。根室の碓氷（うすい）家では、明治38（1905）年にカニ缶詰を製造したとされる。初代・勝三郎は、カニ缶詰の難点である肉の黒変を防ぐため、缶内部でカニ肉を硫酸紙で包む方法をいち早く実用化した。1905年に和泉庄蔵もカニ缶詰を製造した。根室はカニ商品化開拓の町である。

根室地方のカニ缶詰製造にも集約的な労働力が必要だった。ここでは若い女性たちが主役を務めた。1921（大正10）年、函館の和島貞二の工船がカニ缶詰製造をした。漁業者として初の操業であった。

蟹は生での保存が難しいため、明治時代から缶詰加工が行われ、カニ漁業は缶詰製造と密接につながっていた。かつては刺し網漁が多かった。蟹缶作業は、いつも手作業である。1935年から1940年まで北海道のカニ生産は、数千トンから1万数千トンである。

北洋の蟹母船式操業は1920年代後半が最盛期で、蟹工船はソ連の領海で底差し網で乱獲したならば蟹を船上で加工する移動缶詰工場である。1926（大正15）年、「小樽新聞」や「北海タイムス」が大きく報道した蟹工船秩父丸の遭難事件や、博愛丸と英航丸でおきた漁夫、雑夫虐待事件が、多喜二の『蟹工船』執筆の直接の動機となった。

14) 『朝日新聞』1999年10月13日特集から。

多喜二自身は実際に起きた虐待事件、抵抗運動などをかなり綿密に調べて執筆した。1926（大正15）年9月、工船・英航丸での漁夫に対する暴行事件などが発覚した。多喜二の小説のモデルになった。「海中に落ちて命を失うなんていう事故は少なくなかった」「（大漁のときには）一晩に二、三時間寝たら最高の方だった」という証言を、浅利政俊は得ている。¹⁵⁾ 実際、多喜二は蟹工船に乗ったらしいと、同級生石本は言う。しかし乗ってはいない。

極東沿海の蟹缶詰事業は、最近のもので、急速に発達した。アメリカでは1873年、イギリスでは1874年、日本は1890年、ロシアで1903年に、初めて着手した。世界市場での需要が激増し、生産額が巨大に増加した。ロシア領缶詰生産業は盛大だが、事業の大半は日本人が経営している。1911年から16年の6年間に捕獲した蟹は、

	捕獲高（千ポンド）	百分率
日本海	70	0.7
黒龍河口付近	3200	33.0
オホーツク海とサガレン ¹⁶⁾	500	3.2
カムチャッカ西海岸	4300	46.6
白令海とカムチャッカ東海岸	1400	14.3
合 計	10300	

ロシアの海で蟹捕獲業が急速に発達したのは、主に日本資本の活動による。その初期には、漁場の62%は日本漁業家の手にあり、38%はロシア漁業家または日露合弁の下に経営された。近年ロシア資本が欠乏し、日本漁業家の勢力範囲がますます拡大し、その捕獲高は80%、90%に増加し、缶詰事業および外国市場への供給も、日本人に独占された。1923（大正12）年中、日本の米国輸出蟹缶詰は、200万ないし250万ドルにたった。ロシア方面で日本人が捕獲事業

15) 『朝日新聞』1999年10月13日特集から。

16) サハリン=樺太。

に努力していることは、就働者数によっても察知できる。1924年中にカムサツカの工場で、日本資本が雇用した職工数は、1654人、1925年（大正14）では2千人に増加したが、ロシア工場の蟹缶詰は、2工場、百人か120人で、漁夫の数をあわせても、6、7百人にしか達しない小規模なものである。ロシア極東では1910（明治43）年ころまで、本業は微々たるもので、同年、日露の漁業家が多額の資本を投じて、経営に着手し、初めて発達した。工場設立の順序は、1. 1909-10年アメリカ湾内ナホトカ入り江にフェデチキン工場が設立され、2. 1916年、タフィン入り江とワレンジン入り江に2つ、3. 1920年ポポロトスイ岬付近グラニートナヤ入り江、4. 1923年ポポーフ島に一工場が、創設された。日本漁業家はこの外、スウエートラヤ河付近で製造し、また汽船内でも製造したが、日露いづれの工場も設備不完全で、また秩序ある生産ができなかった。これが、改善、増設、技術上の改良をされたのが、1922-23年以後である。¹⁷⁾

ロシアの経営で注意すべきは、労力者の能率の大きな差である。ロシア人の就業時間は普通8時間で、日本人は11時間か12時間の労働である。また一箱の生産の経費は、1914年ころは7ルーブル……、日本人の生産費は5、6円である。蟹缶詰工場は、1つは沿海の定置工場で、1つは移動式工場である。定置工場は8万ルーブル内外で、移動式工場は10、12万ルーブルの建設費用を要し、最近の傾向は移動式が多数である。その理由は、漁獲する場所い航行して材料を積み取り製造するのが便利であり、従って漁獲場の遠近を心配する必要がないし、事業の閑散期では製造設備を取り除き、その船体を近海航路に就役できる等、幾多の便利があるからである。

極東ロシアでは〔当時まで〕一般に技量が拙劣なため、また豊富な天産物があるため、蟹缶詰事業のような一時に巨額な資本を要さず、多大な利益を得る事業を閑却して、外国市場を開発せず、毎年日本資本家のために数百万ルーブルの利益を取り去られている。¹⁸⁾

17) 『小樽新聞』1926年8月22日。

18) 同、8月25日。

日本の蟹漁業は、第2次大戦によって主要漁場を失った。

2 蟹工船漁夫雑夫虐待事件

博愛丸事件

1926（大正15）年に、蟹工船「博愛丸」で、雑夫虐待事件があった。

1926（大正15）年9月7日、『函館日日新聞』は伝える。標題は「漁夫を起重機で 捲き上げたり火刑にしたり 俄然暴行事件発覚した 蟹工船の博愛丸」である。……昨6日午前3時半¹⁹⁾、カムチャッカから当港〔函館〕に帰来した市内弁天町大菱商会の蟹工船博愛丸（2,624トン）に、奇怪極まる暴行事件があることを探知した水上署で、俄然色めきたち、目下関係者を召還取調べ中である。……

『小樽新聞』9月8日でも報道された。標題は、「蟹工船博愛丸に 雑夫虐待の怪事件 行方不明の二名におこる疑問 函館水上署に召還」であり、内容は次である。

函館市大菱商会が経営する蟹工船「博愛丸」が、1926（大正15）年9月6日、函館に入港した。入港と同時に、漁夫、雑夫十余名は、函館水上署に出頭し、蟹工船の監督・阿部金次郎（金之助——、筆者）が出漁中、漁夫、雑夫を虐待し、なお2名が行方不明になった事件を訴え出た。司法部ではにわかには活気を呈し、6日夜来、関係者を続々召還し取調べた。

阿部監督は、かれら仲間では鬼金と云われる男で、狂暴で虐待をする。前年、1920年の秋、多数の死傷者を出し、これに関係して〇〇問題まで伝えられた福一丸事件も、監督であった。彼が主働隊となって行い、鬼金または阿部金の名を聞いただけで、漁夫、雑夫は、震えおののくという有様であった。

今回の取調べと共に、第二の監獄部屋として世間から疑惑の目で迎えられて

19) 原文は和数字であるが、ここでは算用数字とする。

いる蟹工船の内容が明らかにするべく、水上当局ではこれを機会に、徹底的に調べるはずである。

翌日9月9日、同『小樽新聞』で、続きが報道された。標題は、「蟹工船博愛丸の虐待事件 この世ながらの生き地獄 ウインチに雑夫を吊し上げて あざ笑う鬼畜にひとしき監督 真に聖代の奇怪事」であり、内容はつぎである。

蟹工船・博愛丸の漁夫雑夫虐待事件は、ひきつづき函館水上署で嚴重に取調べ中である。その結果、鬼監督として有名な函館市 代ヶ岱一四 阿部金之助（四八）元町四十一 松崎隆一（三〇）その他幹部は、続々水上署に引致され、勾留中である。かれらの悪逆行為 実に監獄部屋の比ではない。無警察なのを奇禍として、人間にあるまじき虐待もあえてしたもので、今同船の乗組員某が実際目撃し、更にこれを日記にしたためたものによれば、6月10日午後、内田という雑夫が病気で後部の部屋に臥床していた処へ、松崎監督が見えて、そこへ甘田工場長が突然出て来て、病のためうん～うなっている内田を、情け容赦もなく縛し、さらに麻縄で旋盤の鉄柱に手足腰をくくりつけ、胸には「この者仮病につき縄を解く事を禁ず」と、ボール紙に書いたものを結びつけ、食物もやらずに虐待したのを見るに見かねて船員が夜ひそかに縄を解いてやった。加藤という雑夫は、同じく仮病と見なされ、阿部監督等のためにウインチに吊るされ、空中高く吊るし上られて、船がローリングするために、ぶらり～と振り動く度に、「あやまった。あやまった。助けてくれ」と、悲鳴をあげて泣き叫ぶにも拘らず、鬼畜に等しい監督等は、「こうして一般の見せしめにするのだ」と、快よげにあざ笑い、驚くべし、一日の間一杯の水一食の飯も与えず、虐待し、なかば死んでいたのを船員が引きおろして手当を加えたため、ようやく蘇生した。だが彼らは、これらにとどまらず、棍棒、ハンマーをたずさえて、あっちこっちに監視の目を光らし、少しでも怠けた者、病気で休む者があれば、ただちに惨虐の手が頭上に下るもので、さながらこの世の地獄である。

同じ9月9日、『小樽新聞』で報道がされた。標題は、「昔の恩義も忘れ 監

禁して絶食の刑 貰った一本のバットに感激の涙 人か鬼か阿部監督」であり、内容はこうである。

蟹工船 博愛丸の鬼監督 阿部が、義理も人情もわきまえず、畜生にも劣る行為をあえてすることは、その昔、阿部が一漁夫としてカムサッカに出漁当時、大船頭をしていた今市某に非常に恩義をこうむった。その後今市は失敗して、今年一漁夫として、その昔の部下であった阿部の監督下に属して、博愛丸に乗り込んだが、不幸にも脚気にかかり、不具の状態となって動けなくなった。血も涙もない阿部は、仮病をつかっているのだと称し、暗い一室に四日間監禁して、絶食の刑に処したばかりでなく、動けなくなった今市を、今度は採割場に廻して仕事をさせ、激務に卒倒するようなことがあれば、「此奴 まだ仮病をつかう、そんならウンと苦しめてやる」と、他の漁夫等と共に出漁させ酷使したため、今は全く根も力も尽き果てて、漁船内に仰向けになったまま、本船に返されたが、阿部はこれに対して、一服の薬も与えることなく、再び暗い部屋に監禁したので、同僚の一漁夫が心配して、監禁室の羽目板に節穴があったので、名を呼んだ処、苦しい声で「自分は阿部のため殺されるのだ、俺は目を閉じる処だが、せめて此の世の名残りに一杯の水を飲んで死にたいから、持ってきてくれ」と、件の漁夫に頼んだが、水の中に入れることが出来ないから、「水を入れられぬから、せめて煙草でものんでくれ」と、一本のバットを与えた処、今市はおし戴いてこれをのんだが、間もなく絶命したという。

記事は続く。標題は、「自由を奪って 残酷なお灸 瀕死の状態を危く救はる 裏面に幾多の惨話」である。

蟹工船 博愛丸の虐待事件は、ついに検事局の活動となり、西主席検事は、8日朝来、函館水上署に出張し、署長室で阿部以下の幹部を召還し、嚴重取調べをしている。地獄の責苦にさいなまれたその裏面には、幾多の惨話を残している。

8月1日工藤という雑夫が、阿部監督に仮病とにらまれて、一室に監禁され、絶食の刑に処せられた際、阿部は足を持ち、松崎監督が綿に火を付けて、両足

および臀部に何度といわず灸をすえたので、工藤は瀕死の状態となり、ようやく同僚の助けにより、生命を保ったが、そのため両足および臀部には、今もなお当時をしのぶ生々しい火傷の跡が印せられ、ようやく立歩いている。

しかも一旦この刑に処されたものに対しては、絶対に煙草等を給与しないため、工藤は煙草が吹たさに、病中大切な丹前とバット二個菓子一袋落花糖三十粒と交換し、わずかに自己の心を慰めたというも、また悲惨な限りである。

『函館新聞』9月8日は、標題「無惨な漁夫虐待 カムサッカ帰りの雑夫の口から 端なく洩らした事実」で、こう書く。(現代風に)

市内弁天町大菱商会蟹工船博愛丸(1346トン)は、6日午前3時、函館へ帰港したが、計らずも全船乗組雑夫の口から、就漁中に、聞くも無惨な漁夫虐待事件が暴露し、直に水上署の大活躍となり、首謀者全部は7日午後2時まで逮捕される見込みである。この背後には何等か水上署との関係を持つものらしく、重大視されている。

博愛丸は、今年4月16日、函館から漁夫雑夫205名を載せ、事業主として、市内元町四十二 松崎隆一(三〇) 総監督千代岱十四 阿部金之助(四八) 監督 古田島磯雄(三三) 元函館水上警察署巡查 西山美代吉(三〇)等が、幹部として出港、カムチャッカ西海岸エツチャ沖合で就漁していた。労働過激で、かつ食糧、飲料水の粗悪なため、二百余名の漁夫雑夫の内約六割まで栄養不良、脚気患者を出した。その内20名はほとんど重病で、とうてい労働に従事することができないのに、前記松崎ならびに阿部、阿部の養子西山等は、手に手に槌のベシ(蟹の甲を挟む道具)ハンマーなどで、所を嫌わずなぐりつけ、ほとんど立つことも出来ぬ重病者を強いて就業させたため、青森生まれ今市某はついに死亡した。彼らはなおあきたらず、睡眠不足のため居眠りをしていた青森生まれ雑夫 佐藤定一(二三)を発見するや、野獣のごとく暴れ出し、襟髪を掴んで引きずり倒し、棒、ハンマーで滅多打ちにした上、胴中を鉄鎖で縛し、ウインチ(荷物を揚げる機械)で吊り上げ、さらに松崎は、綿にアルコールをひたして、同人の臀部にあて、火をつけるなど、狂暴な振舞いをした外、その漁

夫雑夫の内にもほとんど一度としてこれ等の虐待を受けない者はない。総監督と称する阿部は常に、「俺の養子は元函館水上署の警部だから、貴様の一人や二人を撲殺しても何でもない」と豪語していたと言われている。なお同船函館入港と共に、それぞれ漁夫に給料を払う際、最高二円八十銭、最低一六銭という、ほとんど常識を逸した支払いをし、抗議する者には大声で威嚇したというような事実である。なお漁夫村井某が行方不明になった時も、ほとんど知らない者のように看過し、敢えて捜索しないだけでなく、捜索する事を拒んだという怪事実もある。

虐待事件とその談話

記者団はたまたま保護室に休息している同船雑夫小山外五名の内一名の談話を聞いた。

私はこんな荒くれ男ですが、乗船した日から今日まで、ほとんど生きた気持ちなどが無かった程虐待され通したもので、佐藤がウインチに巻き上げられ、十間計りの空の上で、「ゆるしてくれ、ゆるしてくれ」と泣いた声が、今でも耳について離れません。労働といえ、ほとんど人力の及ばない程度のもので、それを一寸でも油断すると、ハンマーが飛ぶ、棒が飛ぶ、これを見て下さい、私の身体はこの通りだ、と身体の生々しいキズを示した。談話がたまたま西山に及ぶや、水上署員某々二名が、突然記者団を漁夫との間を引き分け、談話を禁じた。

『函館新聞』9月9日は、「漁夫虐待致死 —— 事件の連累検挙さる —— 検事局の活動」の標題で書く。[現代風にした]

市内弁天町大菱商会蟹工船博愛丸(一三四六トン)の漁夫虐待致死の事実が、各方面に暴露され喧[次の字、読めず]されると、水上署司法課では、急拠幹部会を開き、鳩首協議の上、七日午後二時、犯行に関係あると認められる松崎隆一(三八)阿部金之助(四五)西山美代吉(三二)古田島元雄その他を、水上署に召還し、徹底取調べを行なった。結局犯行の事実を自白したようである

が、幹部全部を留置するには、賃金支払い、並びに各方面の清算に差し支えを及ぼすため、逃走の恐れなしと認めて、8日未明3時、一同仮帰宅許された。同日午前10時に至り、突然検事局より原検事が来着、聴取書その他口供を聞き取った。本月初旬神宮丸漁夫虐待事件のあった際、一漁夫がその顛末を札幌検事局に投書したため、これらには特に注目していたものと見られ、事件の発展に連れ、直接検事局の活動に移ると想像される。

虐待事件で水上署の談

博愛丸漁夫虐待事件につき、水上署長語る。「極力取調べの結果、虐待暴行の犯跡は充分認められるが、詳細の事実は未だ発表することが出来ぬ。西山某が元水上署の取調べ主任をしていたという事は、新聞社によって始めて知ったが、犯行の事実がある以上は、勿論断乎たる処置をとるにはばかることはない」云々。

9月10日の『函館新聞』は、「博愛丸の船員 虐待事件を引提げて 警視庁へ訴出づ」の題で書く。

函館市弁天町大菱商会蟹工船職工虐待事件は、目下、函館水上署で嚴重取調べ中で、同カムチャッカ露領の蟹工船博愛丸の雑役夫笞刑事件の真相を〔一字読めず〕して、同船乗組員高倉辰之助外25名は、9日午前5時20分、上野駅着列車で上京し、同11時警視庁保安部を訪れ、北海の荒波の中で演じられた笞刑の惨劇を涙と共に訴え出た。

9月10日『函館日日新聞』は、「此位の虐待は —— 何処にもあると —— 西山は空ぶく 博愛丸の虐待事件」の標題で告げる。

博愛丸漁夫虐待事件の成行きについて、各方面から熱心に注目されている。8日午後、松風町丸玉旅館に、博愛丸漁夫を尋ね、虐待の事実について聞くと、実際は報道されたもの以上の無惨さで、一人として阿部金次郎等の幹部を呪わぬものなく、また8日午前、同船船員を召還して取り調べた時でも、皆口を揃

えて犯行の事実があったことを証明している。ただ副監督元函館水上署員西山美代吉は、同署小池刑事に取調べられたのに対し、西山は豪然と、空ぶき、「この位の虐待はどこにもある事ではないか、何も事荒立だてて大騒ぎするには当たらぬ、罰金位で済ませてくれ」と言ったので、小池刑事も勃然と色をなし、「君は元水上署の同僚だというのが、今は容疑者の立場にいる癖に、取調べの刑事に対して左様な態度を示すのは、不謹慎の至りだ云々」と言ったのに対し、西山はなおも無恥な諧謔を弄して引き上げた。

曳かれものの小唄か

一方、松崎は、訪問した某記者に対して云ったことは、こんな事件は他にいくらかもあるのに、私の方ばかりを摘発すると云うのは怪しからぬ、一体蟹工船の事業というものは、三十年の財産を3カ月で棒に振るか振らぬかという境だからなかなか生々しい事は言っておれぬ。たまには頬の一つを撲ることはあるだろう。

同じく9月10日の新聞に、「惨虐の跡を探ねて 蟹工船博愛丸めぐり うなり声が聞こえるような監禁室 漂う陰惨の気」の題で記事がでた。本文は、三枚の写真が出ていて、海員組合の渡辺氏の説明となっている。

船尾にそそり立つ起重機——これに、十六になったばかりの美少年がガンジがらめに縛められて、吊るし上げられた……。船がゆれる毎にヒイ〜悲鳴をあげ乍ら、助けを乞うたが、鬼の様な奴らは、セセラ笑ってなお高く捲き上げた……。ここは鬼どもが、病に疲れ果てた漁夫を、殴る蹴る——それでおおきたらずに、アルコールをひたした綿を臀部にあて、火をつけた監禁室です——中をのぞくと、陰惨な当時の空気がムツと鼻につき、今でも哀れな人々のうなり声が聞こえる様である。——ここが別の監禁室です。重い脚気に身動きがとれなくなった漁夫どもは、冷酷にも数日の間水を与えられず、彼らの唯一の娯楽である煙草すらもすわされず、叩きこまれた所です。——見ると、そこは穢汚い便所である。船員の中には当時の事を思い出して、涙を浮かべて

いるものもあった。——船首には多数の漁夫らがしがばりつけられました。荒波は、遠慮なくこの哀れな人々の頭上からおほいかぶさりました。潮水が眼にはいる、耳に口にはいる、そしてその苦しみに堪えかねて、もがきつつ悲鳴を上げるのを、鬼どもは快よ気に眺めていた……。工場から倉庫、船室至るところ、惨逆の跡である。ヒンヤリと肌を刺す鬼気が浮動している……。

9月11日の『北海タイムス』は報道する。題は「博愛丸の虐待事件 明白となり検事局へ 函館水上署で十日朝取調べ終る 注目される裁断の結果」である。

博愛丸の戦りつすべき虐待事件は、十日朝に至り、取調べ完了し、直に水上署より書類は検事局に送付され、ここに事件は全く函館地方裁判所検事局の手に移された。送付書類の内容は左のごとくである。

罪 名

逮捕 監禁及傷害並に暴行罪

被疑者

本籍 長崎県 西彼杵郡 三重村 字松崎 二一三番

平民 戸主 当時 函館市 元町 四七 漁業

松崎 隆一 (三五)

函館市 千代ヶ岱 一四 平民 戸主 博愛丸 総監督

阿部金之助 (四五)

本籍 北海道 岩内郡 岩内町 字御鉾内町 字西浜中町 番外地 平民

戸主 勇吉 三男 当時 函館市 海岸町 一〇一番地 雑夫長

宮下 勇 (二八)

本籍 新潟県 比魚沼郡 川口村 字中 二一七 戸主

当時 函館市 曙町 二番地 工場長

古田島磯雄 (三〇)

本籍 新潟県 西蒲原郡 坂井岩村 大字小新 一八三五 勇松 弟

当時 函館市 千代ヶ岱 一四帳場

西山美代吉 (二八)

函館市弁天町 大菱商会の経営になる蟹工船は、漁雑夫船員共257名を乗船させ、4月16日、カムサッカ西海岸カフランに向け出帆したが、5月27日午後11時ころ、松崎、阿部の兩名は、共同して、雑夫佐藤貞一(一九)が病気のため数時間の休養を求めたのに対し、灸点をすると称して、左大腿部外側にアルコールを浸した綿に点火したものを持って、一銭銅貨大の火傷を負わせた、同月27日兩名は、佐藤貞一を船内倉庫に午前8時より午後11時まで自由を束縛して監禁し、さらに同夜12時より、同人を翌朝4時半まで、蟹缶製造室に自由を奪って監禁した。雑夫長宮下勇は7月6日、佐藤貞一が疲労の表情を現すと、見せしめと称して、櫂の棒で数回肩部を殴打し、さらに同人を荷物起重機に結縛し、数時間にわたって吊り下げた。

工場長 古田島磯雄は、七月下旬、雑夫明石重光(二五)を平手で右耳に数回にわたって殴打し、鼓膜炎を起こさせ、27日、雑夫水岡正蔵(二三)を玄能で殴打し、同月中旬、雑夫金谷勝芳を大きな磁石で殴打し、いずれも全治まで一週間以上の傷害を与えた。工場長古田島磯雄は、七月中旬より八月下旬にわたり、雑夫堀越長次郎(二三)、雑夫長谷川時蔵(一八)を、居眠りを不都合だとして、櫂の棒で数回にわたり殴打傷害を与え、なお五月中旬より一ヶ月にわたり、雑夫富岡重太郎(一八)を、蟹の肉詰め不良を責めるためとして櫂の棒で数十回にわたり殴打した。

元巡査西山美代吉は、7月中旬、雑夫水岡正蔵(二三)の態度不良だとして、洋食皿で殴打し、8月24日、雑夫大作利吉(二五)が煙草を呑んだのを不都合だと、釘抜で殴打し、いずれも頭部に裂傷を与えた……。

函館水上署司法主任

宮下警部補

函館地方裁判所検事局御中

……いずれも相当処罰すべき犯罪のあったことはここに明白になった。当時

の刑法にもとずいて、彼らは処罰されることになる。

『函館新聞』9月11日も同様の記事を出した。

『函館新聞』9月12日は、「博愛丸の漁夫虐待事件 その方法手段は惨逆を極む 水上署の聴取書以上だ 門脇海事部長の談」として、記事を書いた。

[前略]

門脇海事部長談

四人の陳述を聞くと、事件の真相は新聞紙上の発表並びに水上署の聴取書以上のもので、その方法手段は実に惨虐を極め、これがあまり厳しいので、逐一の事情を管船局長まで申達しておいたが、私の方で取り調べるのは、殊にそれに対する船長の態度如何であった。松崎阿部等の暴虐に対して船長はほとんど干渉することが出来ず、万一彼らの所業について一言半句でも口を出すと、松崎等は暴力をもって脅かすのみならず、常に彼らは船長に対し、「船長でも何でも皆自分の部下だから、もし言う事を聞かねば焼を入れてやる」と称し、船長の一身は同船に乗っていた退職海軍少佐某によって僅かに保護されていたような有様で、事毎に奴隷のように駆使されていたようである。また虐待した事実も、ウインチで巻き上げた事などは一回二回でなくほとんど数回で、ハンマーで撲る事などは殆んど家畜茶飯事で、某少年は寒風烈々たる甲板上に檣に縛られて一夜さらされてほとんど瀕死の重態となり、また某少年は股に二吋大の火傷二箇所を負い、一時昏倒するような次第であったと物語っている。

『函館日日新聞』9月14日は、「博愛丸事件と 船員の悪辣 片手落ちは遺憾と 監督阿部金之助談」という記事を出した。

阿部は語る。

いわゆる博愛丸の暴虐事件について、水上署なども、単に一回私を呼んだだけで、世間も新聞も暴虐事件としてみなしていることは、甚だ遺憾であり、片手落ちの所為と思う。

海事部で取り調べたなどという、船長、機関長などの言分、火責め、水責め

の生き地獄云々を鵜呑みにしてしまうなど、むしろ言語道断である。あれまでに船長以下が漁業経営者を悪宣伝せねばならぬ理由を、少しく探索して貰いたい、非はむしろ彼らにありはせぬか、先ず最初博愛丸を蟹工船に仕立てた時、取外して保存すべきスチームパイプ六百円代を、高級船員がこれを函館で売り払ってしまったものだ。

この問題では、一等運転士が現に私に対して謝罪している、じらい船員は経営者側に対して煙たい感じを持つようになった。かくて下級船員を扇動して、労働時間に故障を言い出し始めた。朝の6時からというが、6時半から、そろそろ出始める、規定の8時には一分の余裕もないといった仕打であるから、警察側でも入浴を月三回と規定通り厳達した中には、帰りたいと困ませを言出したものがあるが、これも便船次第帰ったらよかろうと宣告すると、たちまち一日半の同盟罷業を始めた。全く手に終えぬ態度である。かくて船長には五百円、機関長には四百円の手当を出したが、これに対し船長が二千円くらいの希望を申し出たが、あの仕事の有様で十二分の手当を要求する額があるまいと、はねつけた。これらが今度の悪宣伝の発端である。しかも船長が、経営者側から四十二人分の配当金なりとして六千二百円余りを受取り乍ら、三十人分で配当してしまい、実習生四名と外一名は船員にあらずというので、配当もせぬ、結局横領した訳だ、経営者側も、可愛相だから五人分として六百余円を別に出してやっている、また持戻品なども勝手に処分したり、言語道断の振舞を演じている。就中、腑に落ちぬ問題は、例の不法監禁事件である。

佐藤某は、手も足もつけられぬ怠惰者で、船倉や石炭庫へ隠れてしまって出て来ない、もしや作業中海中に墜ちたのでないかと飛んだ心配をして、大勢で探し出すという仕末、何しろ船内には沢山の揮発油を積んでいるので、そんな所で隠れて煙草を呑んだりされては大変である、自分は去年に英航丸、一昨年は実川丸〔?〕で、共にそうした大火を出した経験があるので、心配でたまらず、船長がいう俣に、安全な一室にいれ、かつ余りの横着に、灸を据えてやろうというので、脱脂綿で灸を据えたことは事実であるが、経営者としては彼らのなすが俣に任せていたのでは、誰一人働く者もない、やむを得ず〔?〕こう

した。

お灸もすえねばならない訳で、この経営に多少経験のある人ならば何人も直首肯される？ である。それを船長がしかも本人を押えてやらしたものであるのを、今では全く空とぼけて知らん顔をしている、警察権があるという船長のお先棒になった仕事ではないか、手当欲しさの不平鬱ふん晴らしにやった仕事を、かくまで正直に同情され、反対に我々経営者側が誤解されることは、遺憾千万である。

以上であるが、阿部監督の述懐は、支離滅裂である。問題は、阿部たちの漁夫雑夫への虐待にある。問題を作ったのは上級船員が原因だとしている。虐待の例を一つだけ認めているが、他は語っていない。その虐待もお灸をすえる点だけである。お灸は、普通はモグサでやり、綿とアルコールではお灸にならない。尤も、これは、お灸ではないお灸であろう。それでさえも船長に罪をかぶせている。給料を船長に払うような側の人物が、虐待では船長に従うのだろうか。スチームパイプを売ってしまったとして、上級船員を非難していて、普通に給料を払うのだろうか。

その他の事件

『北海タイムス』8月9日付けでは、表題が「蟹工船の漁夫 栄養不良者続出 送還中三名死亡し四名重態 当局調査に着手」であり、本文はこうである（現代風にし、句読点をつける）。

カムサッカで、蟹工船の食糧および野菜の供給が不十分により、乗り込み漁夫および雑夫が、栄養不良に陥り、異国の土と化す者が続々現れ、社会問題として大いに考究されている。……先に、博多丸（博愛丸ではないか、——筆者）乗り込み漁夫および雑夫31名が、栄養不良に陥り、函館に送還されて以来、ますます重大視されている。今回また新宮丸、巖島丸乗り込み漁夫雑夫36名が、同様栄養不良に陥り、8日朝入港の第二鉱運丸で函館に送還されて来た。うち3名はついに航海中死亡したため、水葬に付し、なお四名は重態なため、新川

病院に収容されるに至った。他のものは満足な手当を受けずに解雇されるという、みじめな苦を嘗めている。当局でも捨て置かれぬと、いよいよ調査に着手した。

1926（大正15）年4月17日、『北海タイムス』は、「不らちな蟹工船長 漁夫三名溺死さす」という標題で、報じている（現代風に表現し、読点を補う。以下同様）。

目下函館港内停泊中の蟹工船遼東丸の船長、福井県坂井郡雄島村平民戸主、柳川久平（三二）は、昨年四月、蟹工船福一丸の船長として雇われ、西野商会松田漁業部の共同経営たるカムチャッカのモロッチ千川沖合いで、漁労中同船の川崎船一隻が波浪のため転覆、乗組員8名中3名は溺死した旨を切り揚げ後、函館水上署に届出でた事があり、当時水上署でも、波浪のため転覆云々を事実と信じ、別に詳細な取調べもせず、そのままとなったが、最近、福一丸で出稼ぎした漁夫等の口から、意外にも右は当時福一丸の船長たる柳川の過失によって溺死したものと判明したので、ただちに調査をしたところ、昨年9月3日午後2時ころ、同人は福一丸を操縦して誤って川崎船と衝突、ついに三人を溺死させた旨を自白したので、過失致死として告発したが、不らち極まる船長である。

1926（大正15）年9月2日に、蟹工船秩父丸の事件が報道された。『小樽新聞』で、「無情な船主の仕打ちに憤る 秩父丸殉難者の遺族 寄付金を今に渡さぬ」という標題で扱っている。

なお、漁夫虐待事件とともに、秩父丸事件があった。大正15年4月、カムチャッカ沖出漁中に暴雪風に襲われ難破し、376名の乗組員中181名が命を落とした。このため全国から1万5千円の義援金が寄せられた。秩父丸の当事者である北東貿易会社は忌意金として給料3カ月分と「九一金」²⁰⁾のほか、特別功

20) 生産効率を高めるため漁場の出来高に応じて支払われた手当金。

労金を支給すると発表したのが、いまだに全額を支給していないこと、また義援金取扱者の蟹工船会社の組織である蟹工船漁業水産組合はその一部しか犠牲者に支払っていないなど、漁業労働者の無権利状態が問題となった。²¹⁾

『函館日日新聞』9月12日では、秩父丸について報道する。「秩父丸の同情金 今なお放てきのまま 御下賜金さへ分配されず 冷酷な今井船主」の題である。

今春(=大正15年)五月末日エトロフ島魔の海に座礁し幾多の人命を失った小樽市今井商会所有秩父丸事件は、当時各方面より非常の同情を受け、義援捐金も相当集められたが、最近蟹工船同業者の話しによれば、遭難漁夫及び家族に対する慰安方法は、今日なお未だ何一つ講ぜられず、殊に甚しきは、畏くも御下賜金の分配すら行われぬ状態で、義援金のごときもそのまま蟹工船組合に預かり放しという仕末では、船主今井氏冷淡には驚く外なく、組合側としては……近く警告すると、噂される。

『函館日日新聞』9月13日は、「工船門司丸に 又暴行事件 一件書類本日送検 真に憂うべき現象」という題で、書く。

去る11日朝、カムチャッカより入港し来た市内仲浜町邑(いう)村商会経営の蟹工船門司丸に、またまた暴行事件発生し、本船入港と同時に水上署にあっては、嚴重取調べを行った。暴行主犯たる邑村商会員 門司丸乗組員中川重剛(二八)及び同船々頭市内弁天町十六番地小暮玉之助(二二) 桧山郡上国村〔一字読めない〕び上国久米房太郎(三三)に対し、宮下司法主任の取調べによると、本船は四月当港出帆、目的地に七月十四日到達後、中川重剛は雑夫遠正雄(二五)に対し疾病中にもかかわらず棍棒をもって頸部を数回及び平手にて顔面を殴打して負傷させたのを初めとして、雑夫千田喜松(三八)にも竹棒をもって頭部及び頬を、また金子義治を五六寸角材で左耳部を殴打し、重傷を負わ

21) 『函館市史 通説編』第3巻, 1086-87ページ。

せ、さらに雑夫福田久松（五二）にも6月13日棍棒で背中を打つて、昏倒させた。小池志郎は休業中にもかかわらず、頸部を竹棒でこれまた重傷を負わせた、そのた船頭の久米房太郎および千葉勇一（四一）をも竹棒でしたたかに殴りつけ、そのた、あらゆる暴行をなした、いずれも取調べの結果傷害罪及び暴行罪で、本日は一件は書類、検事部おくりとなった。

『函館新聞』9月14日は、「蟹工船門司丸でも 虐待事件発覚す 漁夫監督、船頭の三名 傷害、暴行罪として検事局送り」で書く。

市内仲浜町埜邑商会所有蟹工船門司丸（1800トン）は、11日午〔一字読めず〕カムサッカ西海岸から帰港したが、同船乗組員の口からまたまた虐待事件が発覚し、直に水上署の活動となり、主犯者と認められる門司丸漁夫監督中川重剛（二八）弁天町十六同船頭小暮金太郎（五二）松山郡上ノ国字上ノ国村戸主〔読めず〕蔵養子同船頭久米房太郎（〔読めず〕）を召還して取調べた結果、左のような暴行事実発覚し、それぞれ傷害および暴行罪として、一件書類は検事局送りとなった。暴行の事実は調書によれば、次の様なものである。

中川重剛は、カムサッカ両海岸同海で就業中、15年4月12日、遠藤重治（二五）7月中には、漁夫千田喜蔵（三八）6月中旬には、雑夫金子義治（二六）小池志〔読めず〕（二四）等が、脚気または胃腸病で苦しんでいるのを、檣の棒またはベシ、竹箒、平手をもって、頭部または耳翼、顔面を強打し、治療5日以上一週間の傷を負わせた。

久米房太郎は、7月17日、漁夫千葉勇（四一）が病臥中、竹箒をもって殴打、就業を強制し、また8月中には雑夫千田喜蔵の頭部を強打したごとき事実である。

10月31日の『北海タイムス』は、こう報じている。標題は、「蟹工船内は無警察の状態 労働時間二十時間で 聞くも恐ろしい私刑」である。

カラフト、カムチャッカでの蟹漁業は、年額約5千万円にあがり、我が国の重要生産物として市場をにぎわせ、最近日露漁業問題にからんで、わが国蟹工

船に対する露国警官の暴行事件さえ起こしている。蟹工船の無警察状態を海員協会と日本海員倶楽部にうたえるため、組合函館出張所長菊井親義氏を通じて、横浜市花咲町海員組合で、驚くべき事実を物語った。それによれば、カムチャッカでの蟹工船は、最近わが国当業者間に注目されることとなり、本年夏出漁船12隻の外、約30隻を農林省水産局に出願しているほどである。右12隻中、函館の大菱商会の博愛丸、野村商会の門司丸、北辰漁業の栄光丸などで、船内には何等規則なく、法律で認められた警察権等は何等行使されず、カムチャッカで労働に従事すべき臨時旅客として登船する雑役夫百名、漁夫二百名に対し、公然として私刑が行われ、十数時間帆柱に吊り上げまたは船尾より身体を縛したまま、海中に投じ、数時間曳航し、ヤキと称して焼鉄棒で身体をやき、キルと称してアルコールに身を浸して火で撫で廻すなど、聞くだに恐ろしい。

私刑を行い、または一室に監禁して数日間絶食させる等、いわゆる監獄部屋的惨虐を敢行し、毎日労働時間二十時間に及び、船中では肉缶は下手でもよろしい、しかし給料手当は支給せず、ヤキを与えるべしとの告示をして、労働者を脅迫する等、警察当局も制止の余地なく弱り切っている。

運 動

『函館新聞』9月21日は、「キネマ館にて 蟹工船批判演説 聴衆七百場外に溢る 警官の物々しい警戒裡に」で、伝える。

労働農民党主催の蟹工船漁夫虐待事件に関する批判演説会は、既報のように、19日午後7時より、西川町キネマ館で催された。おりからの豪雨にもめげず、聴衆は定刻前会場立錫の余地なく埋め、約七百名を算し、入り切れぬ聴衆なお場外に溢れる盛況を呈した。例により、官私服の警官二十余名、物々しく警戒し、また聴衆中には漁業関係者が大部見えた。——定刻、板垣哲三氏「二〇世紀の法治国でこの惨虐が行われるに、誰が悲憤せざるをえるや」と、開会の辞を述べ、続いて小山義栄氏「資本主義社会における政治」と題し、無産青年の政治運動にたいする任務を説き、次に蟹工船英航丸の雑夫土井富夫氏「蟹工船問題真相」の題下に、東京の周旋屋から蟹工船の雑夫となるまで、さらに苛

酷な労働の強制、惨忍な虐待をつぶさに述べて、聴衆の涙をそそる。丸町郷太郎氏「蟹工船の漁夫虐待は、ただ彼らのみの問題でなく、全無産階級の問題である」と痛憤し、浜田明氏「無遠慮なく²²⁾ 政治犯を糾弾せよ」として既成政党の腐敗を論難し、「ああ惨逆蟹工船」と題し、津田伊平氏、一々惨逆の状態を述べて、悲憤激越、「吾々労働農民党はすなわちかかる労働者の味方となって、条件の維持改善、研究にあたる」と論じて、満堂を圧す。「街頭の運動を起こせ」として、水谷三重三氏 既成政党の政治形体から脱して、街頭に起ると叫び、吉川清氏「共栄共存の根本義」と題し、既成政党者流の言動相一致しないことを指摘し、蟹工船の漁夫圧迫を等閑にする政府に何の共存共栄の実ありやと痛撃、「この暴虐に抗議せよ」として村上義国氏、豊川町目黒鉄工所の幼年工殴打事件を摘発して、労働階級の団結を叫び、「五万の兄弟を救うは、ただ労働農民党に入るにある」と、論断、鈴木治亮氏、「即時請願運動を起こせ」として、労働者の悲惨の状態を説き、労働条件の維持改善のため労働者保護立法を、とうとうと述べ、聴衆その快弁に吞まれる、最後に「見よこの暴虐を」と題し、田山正一氏、漁夫虐待問題に〔一字読めず〕慨し、熱弁よく肺腑を刺す、かくて板垣氏の閉会の辞により十時半散す。

請願署名者は三百名におよぶ。

キネマ館演説会終了後、労働農民党員は、会場前に机を並べ、漁業労働者保護立法請願運動の署名を求めたら、約三百名に達した。なお当夜わざわざ戸井村より来函した漁夫数名が、請願運動用紙数枚を携え、帰る等、すこぶる熱心な者があり、党員は痛く感激していた。

函館の労働者のうち、組織化が遅れていたのは、漁業関係労働者である。

労農党函館支部では「封建的雇用契約の撤廃、九一金全撤廃全廃と給料の値上、障害疾病の保障、災厄死亡者遺族扶助の徹底、漁夫供給組合の労働者管理」などのスローガンを掲げ、漁業労働者の組織化に乗り出した。

22) 遠慮なく、であろう。

昭和2年9月18日、労農党函館支部の後援の下に漁業労働問題批判演説会が恵比寿劇場を会場に開催された。弁士は博愛丸漁夫小泉義次、福一丸漁夫寺山菊次、英航丸船頭佐藤栄太郎、同漁夫福田太郎、労働農民党鈴木治亮である。(9月18日付『函新』) 当時、問題となっていたのは、……秩父丸事件と北辰漁業会社蟹工船英航丸漁夫の賃銀制度確立などの待遇改善を要求するストライキの発生であった。

9月25日、北海漁業労働組合の創立大会が英航丸漁夫70余名を中心として組織された。「創立大会宣言」が出された。役員には、主事・堀幸雄、執行委員 山田善八郎 山口佐太郎 松村吾一 村上由太郎 平井庄吉がえらばれた。

漁業労働者の権利意識の成長に対し、このころ警察が警戒したのは、露領帰国漁夫の「赤化」問題であった。北洋漁業労働組合の創立前後、水上警察署は、これらの漁夫を「赤化の疑ひがある」として多数召還し、留置した。しかし実際は新聞でも「大半は取調べの後釈放さる」「寧ろ喜劇的な取調べの光景」「無智な漁夫相手に係官大手コ摺り」と述べているように、警察の過剰な取締りであった。²³⁾

函館では、昭和2年10月31日で、労農党员100名とされ、12月には日本共産党の準備会が作られ、翌昭和3年1月には函館水電・国鉄・造船木工・鉄工所・ドックに組織が作られた。

以上の新聞のうち、小林多喜二は、小樽で『小樽新聞』『北海タイムス』を読み、函館へ行って、『函館新聞』『函館日日新聞』を読んだのではないだろうか。²⁴⁾

23) 『函館市史 通説編』第3巻, 1087ページ。

24) 以上の新聞記事は、横山さんにコピーをとって戴いた。